

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会 編集「明日にむかって」編集委員会 発行日 2015年7月17日
住所 〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03-3956-1068(陽光保育園)
社会福祉法人陽光会 HP <http://youkou-kai.com>

77号

「アラヤシキの住人たち」という映画を観た。山あいの古民家で共同生活をする人たちのドキュメンタリー。知的障がい者や競争社会に倦んだ人など、勝手に居なくなってまた戻ってくる人も。ヤギ・犬・猫と一緒に静かな時間が流れる。観ながら「本当の居場所ってなんだろう」と考えた。4月から様変わりした板橋の小学校の放課後生活、それでも去年より一回り増えて連日百数十名が集う。校舎の裏にあって格好の隠れ場所だった学童クラブ室や中庭も満員だ。一人遊びや室内が好きな子たちを見ながら、居心地が悪くなるだろうなと何度も思う。夜になると学童クラブの卒業生がクラブ室に遊びに来る。ずっと中学校に行けていない子もいる。「行けるようになったらボランティアのおいで」と久しぶりにじっくり話し込みながら「居場所は結局“人”なんだ」と改めて思う。来ればホッとでき、会えば満足する、そんなあいキッズを目指したい。(S)



最近、困ってます ○○○○○

“ぶらぶら散歩”ができる場所を求めて——乳児

ようやく歩けるようになった子どもたちは、今まで見えなかった世界を自分で確かめられることがうれしくて、「もっといろんな世界を見てみたい!」と探究心をグングン広げていきます。垣根をのぞいてみたり、蟻を見つめたり、道端に咲いているタンポポを見つめたりしながら進んでいく“ぶらぶら散歩”(道草散歩)が大好きな1歳児です。



1歳児。晴れた日はお散歩へ

そんな散歩をたくさんしたいと思いつつも、車や自転車がたくさん走っている街の中ではなかなかできません。数年前までは、看護学校や、団地の中など、子どもたちが自由に探索できる場所があちこちにありましたが、近年は各所の整備に伴い、そういった場所が減少しています。大人にしてみるとブランコやすべり台などの遊具がなければ魅力的な公園でないように感じてもうかもしれませんが、子どもたちがワクワクする場所は自然の中なのだと感じています。(陽光保育園保育士 若林雪子)

思いっきり走れる場所がなくて……——幼児



茂呂山公園へ。5歳児

とんぼ組(3歳児)は探検、うさぎ組(4歳児)は○△□の島鬼、かもしか組(5歳児)はバナナ鬼が今一番好きな遊びです。公園に着くとすぐ、「やろう!」「鬼決めよう!」と言って元気に遊びはじめます。暑くても、寒くても、一年中公園の中を元気に走り回る子どもたちです。でも、ゲートボールをしていて交通公園は週に2回しか使えない、弥生公園は水曜日だけ、以前はよく行っていた養育院や向原団地の中は自由に遊べる場所がなくなっています。また、ゲートボールがない日は、他の保育園も同じように走りたくて公園に来ているので、混み合います。危なくないように気をつけ、思いっきり走ることがなかなかできません。子どもがいつでも思いっきり走れる場所があるといいなと思います。(陽光保育園保育士 星いずみ)

遊び場の問題も深刻です。たとえば、保育園の「おさんぽ」の時間、園庭のない保育園も増えていくので、いくつもの保育園の子どもがひとつの公園に集まってしまう、時には高齢者のゲートボールと重なり、のびのびとした遊びができないという声をよく聞きます。園庭がある保育園でも「園庭での遊び」と「公園での遊び」はおのずか

に考え合いたいと思います。(多田純也・上演を主とする「ただじゅん企画」、表現あそびの「風光舎」主宰)

で培われてきた「宝物」です。遊び場の問題も深刻です。たとえば、保育園の「おさんぽ」の時間、園庭のない保育園も増えていくので、いくつもの保育園の子どもがひとつの公園に集まってしまう、時には高齢者のゲートボールと重なり、のびのびとした遊びができないという声をよく聞きます。園庭がある保育園でも「園庭での遊び」と「公園での遊び」はおのずか

に考え合いたいと思います。(多田純也・上演を主とする「ただじゅん企画」、表現あそびの「風光舎」主宰)

子どもの遊び場が失われていく!

「遊び」は「子どもの権利」のだけれど……

子どもにとっての遊びは生きることに必要なものでしょう。大人にとって「遊び」は、たとえるなら「おやつ」や「デザート」のような「余暇活動」かもしれませぬ。でも、子どもたちにとっての「遊び」は「主食」そのものです。遊びによって培われるものはさまざまあります。身体の発達、対人スキル、コミュニケーション力。そして遊びは心の豊かさの根拠ともなっています。しかし、この、子どもが遊ぶ環境が今、脅かされていると感じます。異年齢で遊ぶ機会が減少し、遊びの伝承も途切れてしまいました。子どもの遊びは本来、子ども相互の能動的な働きかけによる関わりの中で培われてきた「宝物」です。

遊び場の問題も深刻です。たとえば、保育園の「おさんぽ」の時間、園庭のない保育園も増えていくので、いくつもの保育園の子どもがひとつの公園に集まってしまう、時には高齢者のゲートボールと重なり、のびのびとした遊びができないという声をよく聞きます。園庭がある保育園でも「園庭での遊び」と「公園での遊び」はおのずか

小学生の居場所をめざして

あいキッズをホッとできる場に——小学生
小学生の抛りどころって、なんでしょう? 家庭? 学校? 習い事? 等々ありますが、少なくともこの地域において、「ホッとできる子どもの居場所」として、苦闘しながらあいキッズを作り上げている自負はあります。ランドセルを投げだしたら、虫捕り、球技、泥団子作り、何はなとも量でござ寝(笑)……。異年齢のジャングルで、たくましく育て! (板十小あいキッズ指導員 金本岳大)

●陽光保育園 運動会 日時 10月11日(日) 会場 板橋区立板橋第十小学校校庭	●冬のバザー 日時 12月6日(日) 会場 陽光保育園	●北町保育園 運動会 日時 10月10日(土) 会場 北町保育園園庭	●陽光会後援会 夏の交流会 日時 7月26日(日) 場所 三浦海岸	●納涼会 日時 8月28日(金) 会場 陽光保育園
---	-----------------------------------	---	--	---------------------------------

社会福祉法人陽光会のホームページを開設しました。

陽光会の理念や各事業所の紹介はもちろん、その時々の特集や子どもの写真も満載。小紙「明日にむかって」のバックナンバーも掲載しています。どうぞご覧ください。
社会福祉法人陽光会*公式 HP <http://youkou-kai.com>



板十小あいキッズ

●新しいキッズがスタート●

6月より、「きらきらタイム」(学童クラブに準ずる)と「さんさんタイム」の子どもたちがすべての拠点を一定の時間内で行き来できるようになりました。特に「さんさん」の子どもたちは楽しみにしているように、「クラブ室にはいつ行けるの?」と毎日のように声が上がっています。

元クラブ室にある中庭では、校庭では制限される水や土を使ったあそびが人気で、泥団子作りや夢の中になる子どもたちも! 学童クラブの卒業生がクラブ室に来て、「久しぶりに来た」と懐かしんでいる様子も見られます。

※きらきらタイム…就労家庭の児童対象。さまざまな時間帯あり。17時19時は利用料徴収、おやつあり。
※さんさんタイム…全児童対象。平日17時30分まで。
※(新)あいキッズには3拠点(静的拠点、動的拠点、校庭・体育館など)があり、元学童クラブ室は静的拠点に該当し、きらきらタイムの児童のロッカーもある。



中庭で大好きなどろんこあそび



すっかり水にも慣れて

すが、翌日にはバシヤバシヤと水に手を伸ばし、今では顔にかかってもへっちゃらな様子。一日一日、大きく成長する子どもたちに私たちが驚かされています。



栄養士の話にしっかり耳を傾ける

お話が終わったから、昼食時には、「げんこつ1個分だよね」「肘はつかないんだよね」などと子ども同士で話しながら、意識して給食を食べていました。

●0歳児も水遊び●

どんぐり組(0歳児クラス)では保育士との一対一の関わりを大切にしながら、6人の子どもたちがゆったりと過ごしています。目と目を合わせて行う赤ちゃん体操はみんな大好きです。

春から夏にかけて風が心地よい季節ですが、暑い日も多く、そんなときは水遊びをして楽しんでいます。はじめは「なんだらう?」となかなか手が伸びず、見ているだけの子どもたちでしたが、翌日にはバシヤバシヤと水に手を伸ばし、今では顔にかかってもへっちゃらな様子。一日一日、大きく成長する子どもたちに私たちが驚かされています。

北町保育園 ●食事のマナー●

年3回実施している「食育の日」には栄養士からお話があります。今年第1回目は6月11日でした。4、5歳児対象に「食事のマナー」のお話をしてもらいました。「食、食べるときは背筋を伸ばし、テーブルとお腹の隙間はけんこつ1個分あける」「お茶碗は片方の手で持って、スプーンやお箸で食べる」といったお話を真剣に聞く子どもたち。

お話が終わったから、昼食時には、「げんこつ1個分だよね」「肘はつかないんだよね」などと子ども同士で話しながら、意識して給食を食べていました。

親子でいっしょにあそびましょう

●陽光保育園●
2015年度も、保育園の子どもたちが日ごろ遊んでいる「砂遊び」と「リズム遊び」を主に計画しました。これまでに参加されたみなさまからも「家庭ではできないことができてよかった」「とても楽しかった」など、たくさんの感想をいただいています。公園ではできない遊びが体験できますよ。親子で気軽に遊びにきてください。無料です。

場所 陽光保育園(板橋区大谷口上町23-1) ☎3956-1068
時間 午前9時30分～11時(赤ちゃんは10時30分まで)
対象 0歳児～就学前のお子さんと保護者
*参加ご希望の方は実施予定日の3日前までにお電話ください。
*動きやすい服装で、タオルと着替えをご持参ください。
*お天気により内容を変更する場合があります。
*0歳のお子さんは、室内にて、赤ちゃん体操・あやし遊びなどでゆったり過ごします。

2015年度◆今後の予定		
7月14日(火)終	8月11日(火)	9月15日(火)
10月28日(水)	11月24日(火)	12月8日(火)
1月13日(水)	2月16日(火)	3月1日(火)

* 9月:看護師が「健康」について相談を受けます。
* 11月:栄養士が「食」について相談を受けます。

第47回全国保育団体 合同研究会 in 東京

全国保育団体合同研究会 in 東京に 参加してみませんか。

全国保育団体合同研究会（略称：保育合研）とは——
保育合研は1969年以来、毎年、全国各地で開催されている手づくりの集会です。全国の保育者、保護者、研究者など、1万5000人も関係者が一堂に会し、保育・子育てについて学び、語りあいます。全3日間の日程には全体会や分科会、各種講座やシンポジウムと盛りだくさんの内容が詰まっています。1日だけでも参加できますし、2日間、3日間でも、自由に選べます。
保護者の方もどうぞご参加ください。
保育者だけでなく、保育や子育てに関心がある方なら、どなたでも参加できます。全国のいろいろな立場の人たちが、話しあい、交流できるまたとない機会です。どうぞふるってご参加ください。
以下は、簡単なご案内です。詳しくは、陽光保育園までお問い合わせください。☎03-3956-1068

プログラム（一部）ご紹介

●全体会（13時30分～16時30分）
オープニングフォーラム

最新の保育・子育てをめぐる情勢について学び、新しい保育制度のなかで大切にすべき保育のあり方、課題について考えあいます。
出演：長瀬美子（大阪大学）、藤井伸生（京都華頂大学）、齊藤真里子（保護者）、田境敦（保育士）ほか

●8月20日

■子育て講座（午前の部、午後の部）

●「へいわってすてきたね」

講師：長谷川義史（絵本作家）
講師：近藤直子（日本福祉大学）

●子どものすてきさを見ているかな？

続 子どもの世界

～板十小あいキッズ～

1 年生 — 少女マンガのヒロイン

1年生のKちゃんが少女マンガのヒロインのように目をキラキラさせてお話ししてくれました。「S君はカッコいいんだ！ イヤなことしたけど、すぐにきちんとあやまってくれたんだもん。カッコいいよ～」
「今日ね、校庭でカッコいいお兄ちゃんがいた!! Kのこと助けてくれたんだ！」
どうやらKちゃんにはヒーローがたくさんいるみたいです。

3 年生 — 受け止める

廊下を走っているAちゃんを注意した3年生女子の3人組。カッと手を出してしまったAちゃんですが、素直にあやまったうえで、3人いっぺんに言われたのがイヤだったと言います。3人組の1人Yちゃんが「そうだったんだね。Aちゃんの気持ちわかるよ。それなら私たちもごめんね」と。こんなふうに友達の気持ちを受け止めてあげることができるのって素敵だなと思ったひとコマでした。

とき
2015年8月1日(出)～3日(月)

会場
有明コロシアム ほか

参加費
3日券 9,500円(学生5,000円)
2日券 7,000円(学生4,000円)
1日券 3,500円(学生2,000円)
*当日受付は500円増し

8月30日(月)

●全体会（9時30分～12時30分）

●開催地企画：うたでつなごう 東京の保育、現在・過去・未来

●記念講演：映画をつくりながら考えたこと
講演：高畑勲（アニメーション映画監督）

- ④ 子どもの発達と保育条件の改善のために（分科会22～27）
- ⑤ 保育要求の実現と保育内容の充実のために（分科会28～37）



父子の絆

4月、2歳の息子・将輝に妹ができました。念願の女の子。無事に出産。家族がひとりで増えた喜び。暖かい春の日に、我が家は大きな喜びに包まれました。
しかし、喜びの中にも小さな不安が。将輝だけでも手一杯なのに、赤ちゃんがもうひとり増えるんです。妊娠を知った頃は「なんとかなるさ」と楽観的に考えていましたが、出産が近づくと「大丈夫かな？」と心配になってきました。出産が近づいても、いえ、出産が近づくと将輝は「お母さん、だっこ」と甘えるようになるし……。

まず最初の不安は、お母さんと一緒に寝れない将輝のこと。まだ2歳の子どもにとってお母さんが1週間も入院することは、とても寂しいことです。きつと人生最初の試練です。退院するまでの数日間、お爺ちゃんとお婆ちゃんに手伝ってもらいながら、父と子、2人の生活が始まりました。
心配は現実……？

大変だったけど、2人だけの生活は楽しかったです。意外なことに、将輝はちょっと立派になりました。お弁当をつくって病院にお見舞いに行ったり、公園に遊びに行ったり、自転車ですーパーに買い物に行ったり、築地市場にお魚を買いに行ったり、2人で楽しく生活して、お母さんがいないピンチを一緒に乗り切ってくれました。
食パンの耳をバターでカリカリになるまで焼いて、お砂糖をまぶしただけの、ちよつとカリッとした高めのオヤツ。カリカリに焼けた鮭の皮。チーズを入れた卵焼き。将輝の好物を三つも見つけました。

お母さんと妹が退院して一家4人の生活が始まってからも、将輝は私と2人でも寝られるようになりました。もちろんぐずったり泣いたりしますが、やっぱりお母さんが大好きな将輝。お兄ちゃんになっても、まだ2歳。お母さんと一緒に寝たくてシクシク泣くこともあります。甘えられるときには、お母さんに甘えていいんだよ。甘えられないときには、ちゃんとお父さんがいるからね。

（陽光保育園2歳児クラス・将輝の父 相良聡）

「なんとしても」

伊藤 麻世

なんとしても戦争法案を止めたいし、どうしてあんな法案を無理やり通そうとしているのか、怒りと不信感でいっぱいです。それは2つの理由からです。
1つ目は、「正義の戦争」「仕方のない戦争」なんてないからです。武力行使や戦争で犠牲になるのは、きまってる子供や高齢者、障害者、女性など、なんの罪もない立場の弱い人たち。イラク戦争やアフガニスタンへの攻撃などで、どれほど多くの民間人が犠牲になり、今も苦しんでいることか……。
あらゆる手立てを尽くして紛争をくい止め、人道支援をしていくことこそ、政府がすべきことだと考えます。子供たちが大人になるころ、「人を殺したり殺されたりするのは仕方がない」なんていう社会には絶対にしたくありません。
2つ目は、憲法を踏みにかけているごまかしだらけのやり方です。70年前、不戦の誓いから生まれた憲法は国の最高法規。「ルールを守ろう」「規範意識を高めよう」と道徳教育に力を入れる国のトップが、こどもあろうに憲法をないがしろにしているなんて……。そんなおかしなことがこの国では許されてしまうの？
子どもたちは大人のやり方をきちんと見ています。なんとしても、こんな法案、こんなやり方を止めたいです。（板橋区在住／陽光保育園保護者）

戦火の子どもの里親を続けて30年

岡本 達忠

地中海に面するパレスチナのガザ地区は、1993年の中東和平「オスロ合意」でヨルダン川西岸地区の一部とともにパレスチナ自治政府の統治下となりました。しかし事実上はイスラエルによって陸も海も封鎖され、巨大な強制収容所と化しています。
東京23区の6割程度の面積しかないガザ地区には約150万人のパレスチナ人が密集して暮らしています。そんな彼らの頭上に50日間に渡ってイスラエルの爆撃機から60万発の爆弾が無差別に落とされ、2,000人近くの子どもを含む市民が殺され、10,000人以上が負傷したのはつい1年前のことでした。
欧米列国の一方的な取り決めによって1948年、パレスチナの土地にイスラエルが建国されて以降、今日までパレスチナは70年近くもイスラエルの圧倒的な軍備の下で拘束や監禁、封鎖や侵略、虐殺や空爆が繰り返されています。
そして、パレスチナ人のほとんどが、家屋を失いガレキの下で生活するか、他国に逃れて難民キャンプ生活を強いられているのです。
縁あって私は30年前からレバノンの難民キャンプの子どもの里親運動を続けています。子どもたちや親からは日々を明るく過ごす写真や手紙が送られてきますが、その心の中は希望を奪われ疲弊しつづけています。銃撃や空爆、そして救急車などの緊急車両のサイ

レンが日常的に鳴り響く環境から、彼らを解放す日を迎えることを強く望んでいます。

（NPO法人パレスチナの子どもの里親運動理事）

地域の中にも反戦の思いは沸々と……

渡辺 ちづる

あるとき、大谷口に住む70歳を超える方からこんなお話を伺いました。「私が子どもの頃、この辺りにも不発弾がたくさんあり、みんなそれを拾って遊んでいた。ある日、向かいのお兄ちゃんが遊んでいるうちに爆発し、死んでしまった。この地域にも戦争の惨禍があったということを知れば、誰も知ることなく暮らしていく」と。
庭先でいていない鉢植えの手入れをするおじさんに、「この花は何？」とたずねると、「これは特攻機のある飛行場に咲いていた雑草の花だ。特攻隊で飛び立っていく少年に、娘たちが手向けたんだ」と、そして「戦争は繰り返してはならない」と静かに語りました。学徒動員で戦場に駆り出され、息絶えていった友をみつめる兵隊たちを像に彫刻している老夫も近所にいます。戦争を体験した方がだんだん少なくなる今、戦争を知らない世代に語る機会を作らなくては……と話す私に、その老夫は「そんな話、今誰も聞く人はいないよ」と答えました。
戦争法案が堂々と審議される今日、「絶対戦争を繰り返してはいけない！」その切なる思いを青年たちにどうつなぐのか、それはとても大事な仕事だと思っています。（板橋区在住／介護福祉士）

番外編

シリーズ 戦争と私

戦後70年、新たな危機に向けて——
戦後70年、日本は戦争をしない国として歩んできました。それは世界に誇るべきことです。しかし今、日本を戦争の国にするうとするあらゆる動きがあり、危機感と恐怖と怒りをおぼえています。シリーズ「戦争と私」はこれまで、戦争を体験された多くの方の声を届けさせていただきましたが、今回は「番外編」として、戦争体験者ではない3人の方に平和への思いを綴っていただきました。